

平成30年度 飛騨地学研究会野外巡検

# 双六谷・山之村の岩石と地質



図1 観察地点案内図（地理院地図（HP）に加筆）

【日時】平成30年9月29日（土） 午前9時集合

【集合地】国府文化交流センター駐車場

【日程】国府文化交流センター → ①鼠石 → ②盤の石 →  
9:00 9:40～10:00 10:10～10:30

③材木岩 → ④百間滝 → 山之村キャンプ場  
10:40～11:20 11:40～11:50 12:30～13:10

⑤ 飛越トンネル（手取層） → 国府文化交流センター（平湯経由）  
13:30～14:30 16:00



図2 双六谷の観察地点と地質（地理院地図HPに加筆、地質はジオランド岐阜HPによる）

### ① 鼠石

鼠石は、花崗閃緑岩の一部に、白いネズミの形が浮き出ている石で、双六谷に入ってすぐの道路脇にあります。写真のように、右に頭、左にしっぽがあり、ネズミのように見えます。

付近の地質は船津型花崗岩類で、この石は、花崗閃緑岩です。たまたま石英質の白い部分がネズミの形になっています。

船津型花崗岩類は、今から1.8億年前、中生代ジュラ紀にできました。



写真1 鼠石

【鼠石の伝説】むかし、双六の山に一匹のいたずらネズミが住んでいました。ある日、ネズミは神様にお供えしてあった鏡餅を盗んで食べてしまいました。それを知った女の神様が怒って、このネズミを捕まえて石の中に閉じ込めてしまいました。以来、村人がこの石に触ると必ず雨が降るようになりました。この雨は、閉じ込められたネズミの涙だと言われています。

（加藤迪男、2000、『岐阜県の十二支』、岐阜新聞社）

## ② 盤の石

盤の石は、囲碁や将棋盤の形を思わせる形をしています。斜めになって土中にめり込んだようになっています。今でも触れると暴風雨になるといわれ、かつて雨乞いの時、村人が大勢集まって祈ると、必ず雨が降ったともいわれます。

石の表面は風化して黒ずんでおり、触ることもできません。方丈の形であることから、花崗閃緑岩が風化の過程で四角く割れ、伝説の石になったと推測されます。



写真2 盤の石

【盤の石の伝説】中秋の名月に、月の神様と家族が双六の里に舞い降りて、盤を持ち出して囲碁や双六を楽しみました。近くに住んでいたあまのじゃく達は、いまいましく思い、鶏の一番とりから三番とりの鳴き声のまねをしました。これを聞いた月の神様は、「夜が明けると帰れなくなる」とあせって、碁盤も賽も投げつけて帰っていかれました。あまのじゃく達は、碁盤を持ち上げようとしたのですがびくともしません。そして盤の石になりました。賽（さいころ）は転がって賽ヶ淵に沈みました。（上宝教育委員会、1983、『かみたからの昔話』、上宝村）

## ③ 材木岩

材木岩は、上宝火砕流堆積物（65万～100万年前）が冷却して溶結凝灰岩になる時にできました。溶岩が冷えて固結する時、体積が収縮するため溶岩の中にしばしば割れ目ができます。その割れ目は、柱を重ねたような模様を作ることから、柱状節理といいます。

材木岩は、ちょうど柱状の断面が六角形の材木を重ねたように見えます。材木岩の幅は約30mほどあり、高さ4～5mにわたって山中に露出しています。



写真3 材木岩

【材木岩の伝説】昔、弘法大師が、双六谷においでになり、寺を建立するため良木をお求めになりました。大師は村人にお触れを出し、多くの材木を山と積みました。ところが付近に住んでいたあまのじゃくが、木を川へ滑り落とし雷雨や濃霧を起こし、この計画のじゃまをしました。弘法大師は、あまのじゃくが夜やってきて悪事をはたらくことを知っていたので、寝ずの番をしました。しかし、あまのじゃくのニワトリの声に夜明けとだまされ、大師は眠り込んでしまいました。このすきに、あまのじゃくは材木に悪魔の水をかけました。弘法大師はあきらめて行ってしまわれると、材木は岩となってしまいました。（土田吉左衛門、1962、『飛驒の史話と伝説』、北飛タイムス社）

#### ④百間滝

双六川の支流にかかる高さは約 35m の滝です。山吹峠の入り口のカーブから河床を歩くしか行く近づく方法がありません。春先に木の葉が落ちているとき写真が撮れるようです。

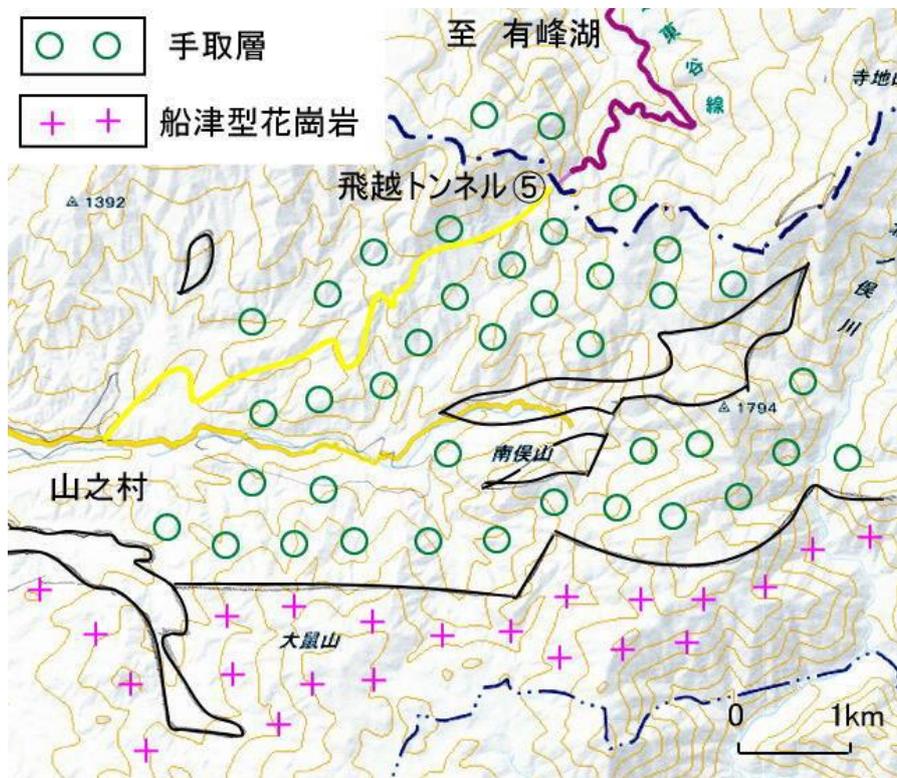


図3 山之村の観察地点と地質（地理院地図HPに加筆、地質はジオランド岐阜HPによる）

#### ⑤山之村の手取層

手取層は、中生代ジュラ紀中期～白亜紀前期にかけての海成から陸水成の地層です。図4のように福井県、石川県、岐阜県、富山県にかけて、地層が残っています。恐竜などのハ虫類化石で有名です。手取層は神岡町山之村にも分布しますが、形成時期など詳しくはわかっていません。

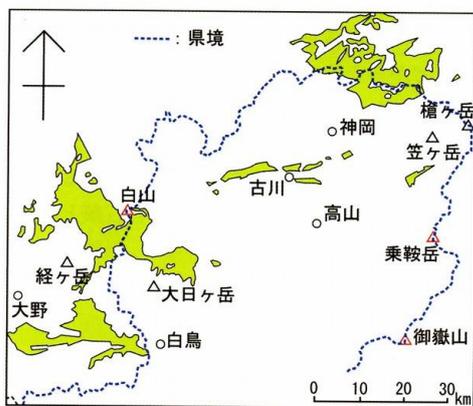


図4 岐阜県付近の手取層の分布  
(小井土、2011)



写真4 手取層の植物化石（山之村）